

博士論文要旨

研究題目 (注：欧文名、和文名の順で両方記入すること)

Polypharmacy is associated with accelerated deterioration of renal function in cardiovascular outpatients.

循環器内科外来患者においてポリファーマシーは腎機能悪化を加速させる

兵庫医療大学大学院薬学研究科

医療薬学専攻

分子循環器病治療学 (指導教員 辻野 健)

氏名 坂本 淳一

(注：研究目的、研究方法、研究結果、考察等について具体的に的確に記入すること)

【研究目的】ポリファーマシーは、様々な疾患の患者の不良予後と関連していることが報告されている。しかしながら、ポリファーマシーがどのような要因に関与しているのか、そしてどのように予後に影響を与えているのかについての報告は数少ない。循環器疾患を有する患者は、複数の併存疾患を有する傾向があり、ポリファーマシーに陥りやすい。このため循環器外来患者におけるポリファーマシーと関連する因子の探索および予後への影響を検討することは重要であると考えられる。本研究の目的は、循環器外来患者の処方薬数に関連する臨床的特徴を探索することである。また、処方薬数が腎機能の悪化に影響するかどうかを検討する。

【研究方法】2011年2月から2012年10月の期間に、心血管疾患の治療（虚血性心疾患、心不全、末梢動脈疾患、脳血管疾患、心筋症、不整脈）もしくは心血管疾患の危険因子（高血圧、脂質異常症、糖尿病）のために兵庫医科大学病院循環器内科外来を受診し、全血球数（complete blood count : CBC）検査と血清クレアチニンが同時に測定された連続する259名の患者をレトロスペクティブに調査した。208名の患者では1年以上間隔をあけて血清クレアチニンが再検されており、eGFRの変化率を求めた。処方薬剤数と各因子の関係および処方薬剤数とeGFRの変化率の関係の解析は、Spearmanの順位相関係数および重回帰分析を用いた。

【研究結果】対象患者のうち73.8%がポリファーマシー（処方薬剤数5剤以上）であった。多変量解析の結果、処方薬剤数は、心血管疾患またはその危険因子の数、貧血、および慢性腎疾患（CKD）ステージ3b以上と独立して関係することが明らかとなった。さらに、処方薬剤数は腎機能の増悪に関与する唯一の因子であった。

【考察】CKDや貧血は循環器疾患患者において予後不良の因子であることが知られている。従って、ポリファーマシーは、心血管疾患またはその危険因子の数だけでなく、重症度を反映しているといえる。また、処方薬剤数の多さが腎機能の増悪に関与していたことから、腎機能障害の原因となっている可能性がある。

【結語】ポリファーマシーは、腎機能障害の程度に関連するだけでなく、腎機能障害の進行にも関連していた。ポリファーマシーは腎機能障害の原因となる可能性が示唆される。

フォントはMS明朝体、サイズは10.5ポイント、行間は1行で、この用紙1枚に収まる様(1,000字程度)記入すること。